# あの夏 2010年 興南×報徳学園

準決勝 1

## 深紅の大旗 沖縄へ渡った

雲ひとつない夏の夕空だった。2010年8月22日。関西空港を出た日本航空479便は、悠々と南へ向かっていた。

「このタイミングで言えば、喜ばれるかな」。午後6時25分。右の視界に鹿児島の大隅半島が過ぎていく。機長の片桐史雄(48)は機内放送のスイッチを入れた。

「深紅の大優勝旗がただ今、この瞬間、初めて本州、九州を離れ、南の海を渡りました」

歴史が変わる。前夜、練りに練った言葉に心を込めた。

前日、全国制覇を果たした興南ナインと、応援団ら約260人を乗せた那覇行きのチャーター機だった。わき起こる拍手の中、監督の我喜屋(がきや)優は思った。

「沖縄に優勝旗を渡していって、野球の神様がやっと認めてくれたんだ」

夏の甲子園で優勝――。それは沖縄の夢だった。

首里が沖縄勢で初めて甲子園の土を踏んだのは第40回大会(1958年)。米国統治下時代のことだ。選手たちはパスポートを手に甲子園へ向かった。初戦で敗れてかき集めた土は、植物検疫法により那覇の海に捨てられた。

8歳だった我喜屋はラジオにかじりついて中継を聞いた。「おばあちゃんは手を合わせながら聞いていた。若者が海の向こうで内地の人と戦う。ある意味で戦争だった」

本土との実力差は歴然だった。48回大会まで4回の出場で1勝だけ。当時、沖縄にはまともな野球場がなく、大学や社会人で野球を経験した指導者も珍しかった。「竹やりで戦車と戦うようなもの」と言われた。

両者の距離を一気に縮めたのが、我喜屋が主将を務めた興南だった。第50回大会で4勝を挙げて4強入り。試合のたびにポケットに忍ばせた土は、スパイクに隠して持ち帰った。

それから42年。「夢」をかなえたのも我喜屋だ。社会人野球の大昭和製紙北海道で活躍、監督も務め、母校に戻って4年目だった。

「本土の強豪校との違いは何か」

目をつけたのは、「なんくるないさ(なんとかなる)」という沖縄特有のおおらかな気質。あいさつ、食事、整理整頓に時間厳守。「小さな積み重ねが強さになる」。のんびりした子どもたちを戦う集団に鍛え上げた。全国屈指の左腕島袋と強打。そして強い心。史上6校目の春夏連覇に、島が沸いた。

那覇空港では約5千人が待ち受けた。ファンが学校に詰めかけ、選手を乗せたバスは身動きできなくなった。9月、沖縄県立博物館・美術館であった「大優勝旗展」には5万人以上が訪れた。

目を輝かせる少年、手を合わせて涙する老人。「沖縄にとっては単なるスポーツの優勝ではないんです」。展示会の担当者だった上地兼恵(ろうえ)(63)は言う。敗戦、米国統治、基地問題。沖縄は政治に翻弄(ほんろう)されてきた。この年、普天間飛行場の県外移設を唱えて前年に政権交代を果たした民主党の鳩山由紀夫内閣が、それを覆して退陣に追い込まれた。

「本土に追いつき、追い越す。優勝旗展はそれを確認する場だったのかもしれません」

ウチナーンチュ(沖縄の人)に誇りと自信を与えたチームが唯一、苦しんだのが準決勝だった。相手は出場14回、地元兵庫の報徳学園。2回までに5点を取られた。

「強い相手に勝つのがうちの野球」と報徳の八代は言う。

その名門の意地が、かえって王者の力を際だたせることになる。

(このシリーズは山口史朗が担当します。敬称は基本的に略します)

興南を引っ張ったエース島袋

7回表興南1死三塁、真栄平は勝ち越しの中前適時打を放つ

7回表興南1死二塁、我如古は右中間に適時三塁打を放ち滑り込んだ塁上で叫ぶ。三塁手中島

### 2010年8月20日(金) 準決勝

時間 2時間5分(11時1分～13時6分) 審判 田中/堅田/林/大槻

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 | 盗塁 | 失策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 興南(沖縄) | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 6 | 2 | 2 |
| 報徳学園(兵庫) | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 3 | 2 |

興南(我喜屋 優監督)

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [二] 国吉 大陸 3年 | 左安 | | 二失 | | 三振 | | 中安 | 遊ゴ | |
| [中] 慶田城 開 3 | 右安 | | 死球 | | 左安 | | 投犠 | | 二飛 |
| [三] 我如古 盛次 3 | 一ゴ | | 右安 | | 中安 | | 右中三 | | 右安 |
| [一] 真栄平 大輝 3 | 投併 | | 二ゴ | | 二併 | | 中安 | | 三犠 |
| [右] 銘苅 圭介 3 | | 三飛 | | 二ゴ | | 三安 | 三安 | | 三振 |
| [捕] 山川 大輔 3 | | 三ゴ | | 右飛 | | 三振 | 右飛 | | |
| [左] 伊礼 伸也 3 | | 二ゴ | | 二ゴ | | 二ゴ | 一飛 | | |
| [投] 島袋 洋奨 3 | | | 三ゴ | | 中安 | 左安 | | 捕邪 | |
| [遊] 大城 滉二 2 | | | 一直 | | 三失 | 一ゴ | | 一ゴ | |

| 島袋 | 投球回 | 打者 | 被安打 | 奪三振 | 四死球 | 自責点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 40 | 10 | 12 | 5 | 5 |

報徳学園(永田 裕治監督)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [中] 八代 和真 3年 | 中安 | 四球 | | 中安 | | 左中二 | | | 二ゴ |
| [二] 谷 康士朗 3 | 投犠 | 三振 | | 四球 | | 左邪 | | | 右安 |
| [三] 中島 一夢 3 | 一安 | 左中三 | | 中飛 | | | 二ゴ | | 三振 |
| [一] 越井 勇樹 2 | 三振 | 右安 | | 三振 | | | 左飛 | | 三振 |
| [捕] 森田 浩暉 3 | 死球 | 右飛 | | | 一飛 | | 左安 | | |
| [右] 浦崎 裕理 3 | 三振 | | 右飛 | | 四球 | | 二ゴ | | |
| [左] 木下 裕揮 3 | | 中安 | 中安 | | 投ゴ | | | 三振 | |
| [投] 大西 一成 3 | | 投犠 | 三振 | | 左飛 | | | | |
| 投 田村 伊知郎 1 | | | | | | | | 三振 | |
| [遊] 長谷場 隆 3 | | 四球 | | 三振 | | 三振 | | 三振 | |

| | 投球回 | 打者 | 被安打 | 奪三振 | 四死球 | 自責点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大西 | 6 1/3 | 30 | 10 | 2 | 1 | 5 |
| ▼田村 | 2 2/3 | 11 | 3 | 1 | 0 | 0 |

得点打

### 沖縄の高校野球の歴史

細字は沖縄県の戦後の歩み

| | |
|---|---|
| 1945年 | 終戦。米国の統治下に |
| 1952年 | 米国により、琉球政府創設 |
| 夏 | 東九州大会に沖縄勢が戦後初参加 |
| 1958年夏 | 第40回記念大会に首里が沖縄から初の甲子園出場 |
| 1963年夏 | 第45回大会の2回戦で首里が日大山形を4−3で破り、沖縄勢初勝利 |
| 1968年夏 | 我喜屋主将の興南が沖縄勢初の4強入り |
| 1972年 | 沖縄が日本に復帰 |
| 1990年夏 | 沖縄水産が県勢で初めて決勝に進出して準優勝。同校は翌年も決勝へ進み、2年連続準優勝 |
| 1999年春 | 選抜大会で沖縄尚学が県勢として初優勝 |
| 2003年 | 沖縄への観光客が500万人突破 |
| 2008年春 | 沖縄尚学が選抜大会で2度目の優勝 |
| 2010年夏 | 興南が県勢初の全国制覇で史上6校目の春夏連覇を達成 |

沖縄勢の初出場は第40回記念大会の首里だった



優勝旗を手に那覇空港に凱旋(がいせん)した選手たちを多くの県民が出迎えた

グラフィック・高橋 亮知

全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第5シリーズ、2010年夏、第92回大会準決勝の「興南一報徳学園」は、12月27日まで、計40回(火～土曜日に掲載)を予定しています。